

ホッとな地域の話題 -新規就農者編-

名前

加藤

純規



経営の概要

- ※ 地域 和寒町
- ※ 品目 めん羊、山羊
- ※ 就農年月 令和2年11月
- ※ 前職 地域おこし協力隊

就農しようと思ったきっかけ

「羊のまち」として有名な士別市出身で、幼少から羊肉は身近な食材であったが、大学生の頃に羊牧場を巡るツアーに参加し、その時に食べた羊肉の美味しさに衝撃を受け、羊に興味を持つようになった。調べていくうちに、幼少期の頃から普段自宅で食べていたジンギスカンの羊肉が地元産でなかったことや、北海道産でもエサはほとんどが輸入飼料であることを知り、輸入飼料に依存しない、その地のものを与えた本当の意味での地場産の羊を生産したいと思うようになり、就農を決意。

現在は繁殖羊60頭、ピーク時には子羊を含め200頭弱の羊を飼養している。また、リスクヘッジも兼ねて山羊を20頭ほど飼養し、除草作業用に貸し出している。

就農してよかったこと・苦労したこと

地域おこし協力隊として働いていた時、羊だけで安定した経営を行うことは難しいと言われ、複合経営やまずは雇用就農という形を勧められたが、個人の羊農家として販売などにも自分で取り組みたいという思いがあり、研修地での就農を断念。その後、和寒町と縁があり、令和2年に羊を導入し、牧場を開始。就農してすぐは、普通の農家が当たり前にできるようなことでも失敗ばかりでつまづきそうにもなったが、周りの農家に助けられて続けることができた。

「私が育てた和寒産の羊です」と自信を持って言える肉を生産することができているという実感があり、独立就農してよかったと感じている。

今後の展望

常に飼料を見直し、追求し、羊を通して地域の循環が生まれるような羊飼いを目指したい。また、羊を通して、食について考えるきっかけを提供していきたい。

経営面では、新規就農者支援事業が今年度で終わるので、支援がなくても安定した経営を維持できるように頭数の管理をしていきたい。

令和8年3月作成